

2025 年度 研究サマリー

研究会名称	透析治療研究会が実施する「慢性血液透析患者に対する通常療法またはスタチン系薬剤併用療法による介入比較試験（DIALYSIS）」	
代表者所属	順天堂大学	
代表者氏名	富野 康日己	印
2023 年はその多施設共同研究の結果を集約・データ化し、関連学会でその結果を発表し 2025 年に論文化した。この結果を受け、2025 年度は、慢性血液透析患者を含めた高齢者のフレイル早期発見にむけた既存の認知機能測定 AI アプリケーションを用いたフレイル評価と透析患者のフレイル傾向の特徴の比較検討研究ならびに維持透析患者への自己健康管理アプリ（e ケア）介入による健康意識と臨床所見への効果の検討を行い、その結果は 2026 年の日本透析学会総会で発表する。2026 年度は、認知機能測定 AI アプリの研究で、表情ならびに会話の要素からフレイル運動器機能低下との関連性が示唆される結果であり、今後さらに対象を増やして臨床への展開を行う。また、自己健康管理アプリの介入の結果では、利用者自身の体調の可視化が抑うつ傾向の改善や医療への依存の軽減傾向を認めたため、健康管理に対して医療者に依存な透析患者への意識誘導の有用性に関して、先の研究同様症例を増やし検討する予定である。アプリ介入効果に関しては、現在投稿中である。 <2025 年度研究結果> <u>維持血液透析患者の健腎者群との比較によるフレイル・認知機能状態の特徴に関する研究</u> 【目的】維持 HD 患者は、一般高齢者に比べフレイル進行や認知機能低下のリスクが著しく高いことが報告されている。しかし、フレイルの校正要素には口腔フレイル、アイフレイルなどがあるため、本研究では透析患者のフレイルの特徴に関して健腎者と比較検討し明らかにする。 【方法】横断研究。65 歳以上の維持透析患者 10 名と健腎者 163 名を対象に、アンケート調査、握力測定、5m 歩行測定、AI 認知機能検査を実施した。【結果】透析患者群は、健腎者群に比較して 10 歳程度若い、服薬種類が多かった。基本チェックリスト（KCL：包括的フレイル）のポイントと J-CHS（身体フレイル）のポイントには正の相関があり、認知機能評価と KCL には負の相関があった。透析患者は、同世代の健腎者に比べ身体的フレイル者は多いが、認知、口腔、アイフレイルでは差異を認めなかった。【考察】フレイル進展は一樣ではなく、身体機能低下の先行が透析患者のフレイルの特徴であり、機能維持への対策が望まれる。 <u>自己健康管理アプリ（e ケア）による維持透析患者の健康意識と臨床所見への効果の検討</u> 【目的】維持透析患者のアプリによる体調の可視化が健康意識ならびに臨床所見に及ぼす効果を確認した。【方法】年齢が 65.4 歳、透析期間 5.9 年の 12 名を対象に、3 か月の e ケア使用前後の臨床所見、健康関心尺度、健康リテラシー、フレイル程度を調べた。【結果】体重増加や透析中の血圧変動に変化はなかった。血液検査では、Hb が有意に上昇していた。健康関心尺度では、体重増加や透析中の血圧変動に変化はなかった。血液検査では、Hb が有意に上昇していた。健康関心尺度では、体調不安を抱え依存であった健康意識が改善する傾向が認められた。健康リテラシーは前後で著変なく、フレイルチェックでは抑うつ気分が有意に改善していた。歩数は著変ないが、上った階数は増加傾向を示した。長期の透析や健康関心尺度で予防に関心が高い患者、健康第一と考える患者が、アプリ利用率が高い傾向であった。【考察】少数検討であるが、体調の可視化は抑うつ状態が改善され、健康管理の依存性が改善される傾向が認められた。		